

2022年1月21日(金) 第2860回例会 形式:対面 天候:晴れ 合唱:奉仕の理想

会長 室伏学 幹事 望月博文

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内 TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716  
例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

室伏学

前回の例会で望月幹事が一部お知らせしましたが、1月26日奉仕デーの小田原城清掃、および、合同例会は4月を目途に延期となりました。また、1月24日に予定されていた対面の会長幹事会は Zoom によるリモート開催に変更になり、終了後に予定されていた新年会も中止となりました。

こういった状況も踏まえて、前回の例会後に開催した創立60周年記念事業実行委員会、3月25日の記念式典、および、祝宴の中止を決定いたしました。もしかすると、この3月までにはオミクロン株による第6波が収束する可能性もないわけではありません。しかしながら、この先さらに深刻な状況になるかも知れない中で、招待状を発送することは到底できないという判断になりました。尚、記念事業としての湯河原駅入口交差点(湯河原中学校前)「四季彩の塔」付近への時計塔の設置や記念誌の編纂は予定通り進めます。また、6月までの年度内には、規模を大幅に縮小し、記念例会をメンバー経営のどこかの旅館で開催したいという話にもなっております。その際には、「温故知新」をテーマにした、当クラブ過去の資料の展示や、既に佐東丈介会員にご検討いただいている、会員やご家族の作品展等も併せて実施したいと考えております。高杉実行委員長ともども苦渋の決断でございます。事情ご賢察くださいますよう、お願い申し上げます。事前にご招待の旨をお知らせしていた、湯河原町長、立山ロータリークラブ(会長並びにクラブの皆様)、平松名誉会員、田島ガバナー、木村ガバナー補佐には個別に中止をお知らせする書面をお送りいたします。

また、1月18日にガバナー事務局から連絡があり、2月28日の地区大会親睦ゴルフコンペは中止、4月29日の地区研修・協議会は予定通り、相模原市民会館で開催するそうです。

16 都県で「まん延防止等重点措置」が適用されています。現時点の要請内容であれば、当クラブの例会は通常開催を続ける予定であります。会員の皆様それぞれの職業への悪影響がこれ以上長引かないことを願っております。

幹事報告

ガバナーより

1.地区研修・協議会の日程につきまして、兼ねてよりお知らせのとおり、4月29日(金/祝)、相模原市民会館にて開催いたします。ご周知くださいますようお願い申し上げます。

出席報告

会員	25 名	出席率	87.50 %
欠席	4 名	前回の修正出席率	87.50 %
(免除者)	1 名	前々回の修正出席率	91.67 %
ゲスト	0 名	事前メイクアップ	2 名
ビジター	3 名		

ビジター

地区職業奉仕副委員長 森島洋子君(相模原かめりあRC)  
地区職業奉仕委員 相原聡君(大和RC)  
地区職業奉仕委員 角山俊夫君(箱根RC)

連絡事項 なし

スマイルBox

入会記念日 小倉高代君(7年・H27.1.16)  
入会記念日 高知尾朝行君(47年・S50.1.24)  
地区職業奉仕委員会・森嶋洋子君・相原聡君・角山俊夫君  
本日は職業奉仕卓話にお招き頂きましてありがとうございます。卓話者は本日デビューいたします。宜しく願い致します。神谷一博君 相原さん、森嶋会長、角山さん湯河原ロータリークラブへようこそ  
平間章弘君 お客様のお名前を間違えました。

ご夫人誕生日



高杉尚男君  
富美子夫人(1/19)

結婚記念日



室伏学君  
1/21

(およろこびは次号に続きます)



ロータリーの核心は「奉仕の理念」です。

職業人はどうあるべきか、日々の仕事においてどのような行動をとるべきかを理論化したものが職業奉仕です。その具体的な内容が、ロータリーの目的の特に第2項や、ロータリアンの行動規範、四つのテストなどに示されているわけであり、それをキーワード

で簡単にまとめたのが、青字で示した4つ●**高度の倫理基準** ●**高潔性** ●**職業理解** ●**職業スキルの提供**です。

「高度の倫理基準」とか「高潔性」といった言葉の意味を、深掘りしてみようと思います。職業人をいくつかの型を想定します。一つは聖職者型、もう一つは商人型。別途、「職人型」とでもいうべき、「ひたすら技術の向上・完成を目指す」という型も想定できるかもしれません。ほとんどの人は、いわばミックス型でしょう。

「高度の倫理的商人」は近江商人や、渋沢栄一氏、松下幸之助氏らが思い浮かびます。松下幸之助氏の「利益は社会に貢献した報酬」である。だから「社会貢献の度合いに応じて利益も大きくなる」という考え方ですね。松下幸之助氏は、ロータリアンでした。

少し視野を広げて、世界に目を転じてみましょう。経済に関する考え方に、今、注目すべき変化が見られます。「株主資本主義」から「ステークホルダー資本主義」へ。株主だけでなく、顧客、従業員、地域社会、更には環境など、企業をめぐる利害関係者(ステークホルダー)全てに貢献できるような企業経営を目指す、という考え方です。ダボス会議という、世界的な企業家、政治家、学者らが参加する会議体が打ち出したことで、注目されています。

ESG投資は短期的な値上がりで儲けるような投資ではなく、環境、社会、ガバナンスにきちんと取り組んでいる企業にこそ投資しようという考え方です。いわずと知れた、SDGsは社会の「課題」を把握して、これに世界的な規模で取り組もうという運動ですね。

この背景は、短期的な利益追求による格差の拡大、環境破壊など、このままでは世の中が持続しないという危機感、そしてグローバル化したこの世界においては、誰一人として、「私には関係ない」ということができないという事実です。私たちは今、大きな意識変革を迫られているのです。

このような流れを見ると、改めて、ロータリーは、時代を先取

りして、百年も実践してきたと言ってよいと思いませんか。ロータリーは、ずいぶん昔から、それが良いこと、正しいことと判断して、自分たちの行動原理として「職業奉仕」を掲げてきました。時代の激しい流れの中で、今こそ、私たちはこれを堅持し、その判断の正しさを、自信をもって語るべきです。

「よりよい世界」とは、どんな世界だと、ロータリーは考えているのでしょうか。

一つはビジョン声明。もう一つが、7つの重点分野です。ビジョン声明は、「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する社会を目指しています」ということです。7つの重点分野は、そのために私たちはこういうことに重点的に取り組んでいるということ。ロータリーが考える、この世界の「喫緊の課題」とでもいうべきものです。昨年、7つ目に環境保護が加えられたことに、注目しておきましょう。

高い倫理基準による行動とは、これらに加えて、更に「責務を超えた善いこと」をするということ。端的に言えば、見返りがなくても与えるということではないかと思えます。

ギブアンドテイク、仕事をした分だけもらう。過大請求はしない。これは、取引・商売の基本です。しかし、その裏を返すと、「もらえる分しか与えない」わけです。これをあらゆる場面に適用してしまうと、与えるものない少数者、弱者は救われませんね。

ところで、「見返りがなくても与える」を言い換えると？「奉仕」ですね。つまり、ロータリーが言う「高度の倫理基準」とは、私たちの魂である「奉仕の理念」に裏打ちされた行動基準だと、そう言ってよいのではないかと思うのです。

このコロナ禍において医療従事者の応援、援助をした。諸団体にマスクや防護服の寄付をした。身を削って従業員を守った。世界中のロータリークラブ、ロータリアンが、数えきれないほどの行動を起こしたはずですよ。

私たちは、地域社会で、自分の会社で、自分は何をすべきか、何が求められ(ニーズ)、どんな援助が有効なのか、必死に考え、これらを実践しました。「あなたも決して楽ではないはずなのに、なぜ？」と問われたら、ロータリアンはこう答えるでしょう。「為すべきことを為したまでです。」強制や指示、非難や同調圧力が理由ではなく、それが善いことだと判断したからなのだ。

これこそが、「職業奉仕」の名のもとにロータリアンが培ってきた行動原理の体現であり、倫理の本質です。倫理とは、自分が「良い(善い)」と考え、こうありたい、こうあるべきだと思っ、描く自分や社会のありように向けた行動原理です。

(編集 1月会報担当: 佐東丈介 / クラブ会報委員会)